

令和7年度

香 芝 市 議 会
行政視察研修報告書



総務建設委員会

新居浜市 ワクリエ新居浜
(コミュニティーサロン)

1. 概要

香芝市議会 総務建設委員会 県外視察研修（令和7年度）

1. 日 程 令和7年11月11日（火）～11月12日（水）

2. 出席者 （委員長）中井 政友 （副委員長）上田井 良二
（委 員）川田 裕 福岡 憲宏 木下 充啓
清川 希代子 吉田 弘明 富家 章裕
（随行者）議会総務課主幹 鶴谷 彰三

以上 9名

3. 視察地

◆愛媛県西条市

愛媛県西条市明屋敷164番地

人口：102,453人（令和7年9月30日現在）

面積：510.04 km²

◆愛媛県新居浜市

愛媛県新居浜市一宮町一丁目5番1号

人口：111,599人（令和7年9月30日現在）

面積：234.47 km²

4. 視察事項

（1）西条市・・・石鎚クライミングパーク S A I J Oを活用したまちづくりについて

（2）新居浜市・・・ワクリエ新居浜について

本委員会は、令和7年9月議会において上記のとおり派遣を議決され、視察事項のとおり研修を行った。

まず、11月11日の午後に西条市石鎚クライミングパーク S A I J Oを訪れ、同施設の説明を受けた後、質疑等を行った。

翌11月12日にはワクリエ新居浜を訪れ、同施設の説明を受けた後、質疑等を行った。

実施委員は、11月12日の夕刻に帰郷した。

2. 研修内容のまとめ

日 時：令和7年11月11日（火）

視 察 地：愛媛県西条市

研修内容：「石鎚クライミングパーク S A I J Oを活用したまちづくり
について」

【西条市の概要】

西条市は、四国最高峰である石鎚山と瀬戸内海に囲まれた自然豊かなまちであり、山と海の双方の恵みを生かした農業・工業・観光がバランスよく発展している。市内には鉄道や高速道路が整備され、広域交通の結節点としての役割も担っている。

【経緯】

石鎚クライミングパーク SAIJO は、平成 29 年 10 月に開催された「えひめ国体」の山岳競技（スポーツクライミング）の会場として、西条西部公園内に整備された。

国体後も全国大会の開催や日本代表選手の強化合宿などを受け入れるため、平成 29 年にはリード・ボルダリング両競技場の屋根整備、平成 30 年度にはスピード競技場の新設等を行い、全国規模の大会・合宿が継続して開催される西日本有数のクライミング拠点となっている。

【施設の概要】

- ・ 所 在 地：西条市西部公園内
- ・ 主な施設：ボルダリング競技場、リード競技場、
スピード競技場（H30 年度追加整備）
- ・ 機 能：えひめ国体の山岳競技会場・ジャパンカップ等の著名な大会会場
日本オリンピック委員会の強化拠点認定施設（R7 年 3 月 31 日まで）
国内外ナショナルチーム選手の強化合宿、事前合宿会場
一般市民の利用・教室・地域クラブ活動 など

【事業費用】

財源については、「社会資本整備総合交付金」、「スポーツ振興くじ助成金」及び「合併特例債」等を組み合わせることにより、市の一般財源負担が一定程度抑えられていることが確認できた。

また、当該施設は、使用料収入のみならず、全国大会・合宿等の開催により時には選手や関係者合わせて 100 名を超える方が市を訪れ、宿泊・飲食・交通など市内経済への波及効果が生じているほか、子どもの体験活動やトップ選手育成、都市イメージ向上に大きく貢献する施設であるとの説明を受けた。

1 施設整備費 394,105,775 円 (H26～H31)

施設整備費（歳出）	財源構成（歳入）
・ ボルタリング、リード競技場 287,828,375 円	・ 社会資本整備総合交付金 90,339,000 円
・ スピード競技場（H29～H30） 106,277,400 円	・ 県補助金 57,929,000 円
	・ スポーツ振興くじ助成金 20,000,000 円
	・ 合併特例債 212,178,000 円
	・ 基金 8,868,436 円
	・ 基金利子 313,939 円
	・ 一般財源 4,477,400 円
合計 394,105,775 円	合計 394,105,775 円

施設整備費とは別に管理運営委託等費用に 51,661,536 円 (H27～H31) を要しており、全体事業費は、445,767,311 円 (H26～H31) となる。

2 整備経過

年度	整備内容	できごと
H25	・ 山岳競技（ボルタリング競技、リード競技）施設設計委託	
H26	・ 山岳競技整備（約 2 億円） ・ 園路整備（進入路拡幅、バリアフリー化）	
H27	・ 山岳設備の備品整備	
H28	・ リード屋根整備設計委託 ・ おもてなし広場等整備	
H29	・ リード屋根整備 ・ スピード壁設計委託	えひめ国体
H30	・ スピード壁整備（約 1 億円）	JOC スポーツクライミング競技別強化センター認定

事業費は、初年度の基盤整備（H26）とスピード競技場を整備した年度（H30）に集中しており、その後は大規模整備を終え、運営中心のフェーズに移行している。

〔実績〕

1 種目別の特徴

・ スピード競技場
全国大会や強化合宿、記録会等の場として位置付けられている。高さ 15mの壁に設置されたルートに登るタイムを競う。



・ リード競技場
競技志向の高い利用者による安定した利用が続いている。可動式で壁面の傾斜を調整できる。

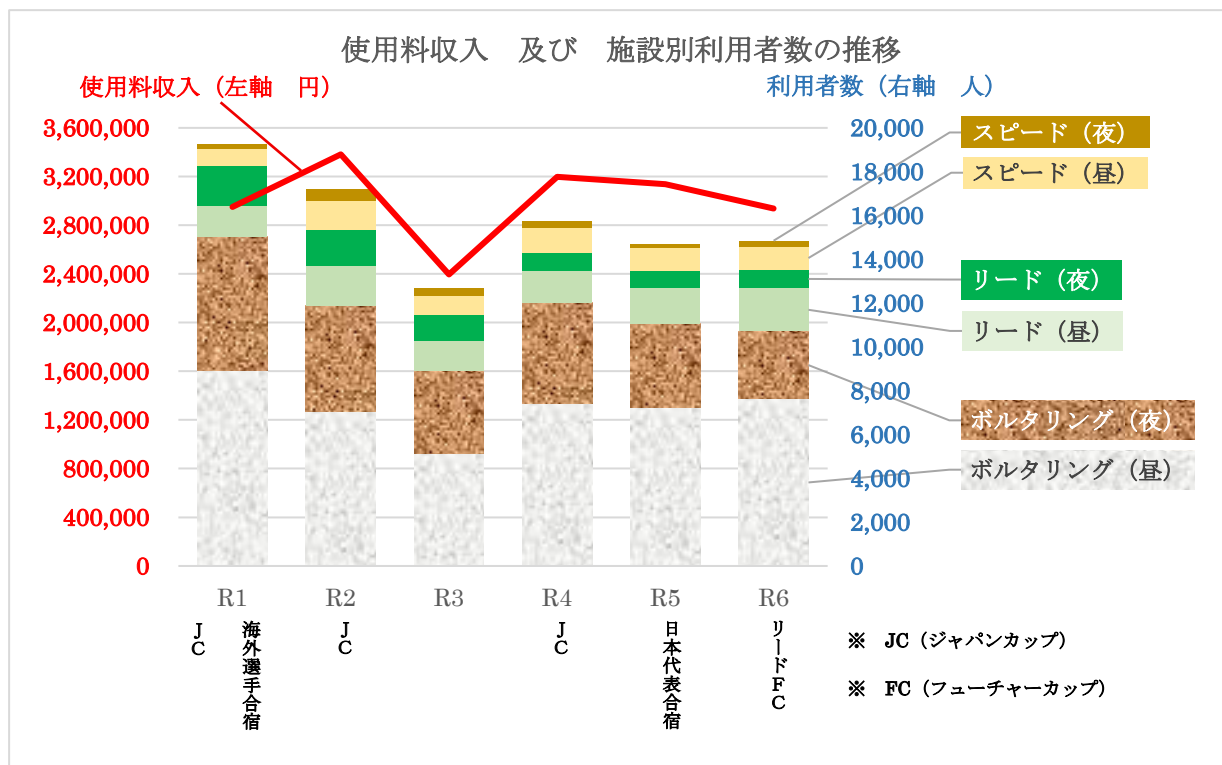


・ ボルダリング競技場
利用件数・人数とも施設全体の大半を占める主力施設であり、昼夜を通じて多くの利用がある。



2 利用の概要（直近 5 か年度）

- ・ 年間利用者数：約 1 万 9 千人～1 万 3 千人
- ・ 年間使用料収入：約 300～240 万円
- ・ 使用料収入合計：約 1,506 万円（直近 5 か年度）



〔所感〕

石鎚クライミングパーク SAIJO は、国体開催を契機に整備されたクライミング施設を、国体後も全国大会の開催、日本代表クラスの強化合宿、市民スポーツの場、次世代育成の拠点として多角的に活用している点が印象的であった。

財政面では、整備・運営費に対して使用料収入は限定的であり、単年度収支のみを基準として評価する施設ではなく、大会や合宿誘致による宿泊・飲食・交通等の市内経済効果や、都市の魅力向上といった付加価値を継続的に生み出していることから、今後、本市が類似施設や高度なスポーツ施設整備を検討する際の有力な参考事例となる。

また、ボルダリングを中心とした一般利用の裾野の広さと、リード・スピードといった競技性の高い種目を組み合わせることで、「誰もが楽しめる場」と「トップレベル競技の場」を両立させている運営方法は、本市におけるスポーツ施設の在り方を考えるうえで多くの示唆を与えるものであった。

今後、本市がスポーツを通じたまちづくりや次世代育成を進めるにあたり、石鎚クライミングパーク SAIJO のように、整備段階から国・県の支援制度の活用を見据えつつ、ハード整備とソフト事業を一体的に企画することが重要であると感じた。



スピード競技場

3. 研修内容のまとめ

日 時：令和7年11月12日（水）

視 察 地：愛媛県新居浜市

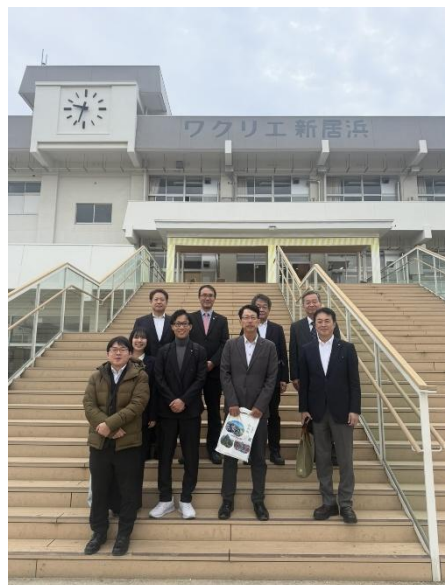
研修内容：「ワクリエ新居浜について」

【新居浜市の概要】

新居浜市は四国のほぼ中央に位置し、JR四国予讃線が東西に走り、国領川が市中心部を南北に貫流する。市域は四つのエリアに大別され、森林面積が約73%、居住地が約27%である。松山へ約一時間、高松・高知へ約一時間半と周辺都市へのアクセスに優れている。人口は令和7年9月末で約11万人（県内3位）である。別子銅山の産業遺産群をはじめ、東平地区の景観は「東洋のマチュピチュ」と称され、広瀬幸平邸（重要文化財）、新居浜太鼓祭りなど歴史文化資源が豊富である。

〔経緯〕

市は平成 29 年度に生涯活躍のまちと移住政策を推進するため「R C C新居浜アクションプラン」を策定し、同年度末に廃校となった旧若宮小学校を地方創生拠点整備交付金等を活用して大規模改修し、令和 3 年 6 月に供用開始した複合拠点である。敷地約 18,241 m²、延床約 5,560 m²で、南北校舎、体育館、運動場、プール、57 台の駐車場を備える。内部にはコワーキングスペースやレンタルオフィス、音楽スタジオ、クラフトルーム、レンタルキッチン、木育ひろば、リカレント学習室、校史展示等を配置している。内装は学校の雰囲気や設備を可能な限り残しつつ、給食室は飲食施設に改修、プールには IT を導入してスマート陸上養殖の技術開発に取り組むなど既存の施設を生かしながら、多くの層の利用を促している。



若宮ヒストリー（校史展示）

運営面では、指定管理者がレンタルオフィス、コワーキングスペース、マルシェなどを通じて収益確保に取り組んでいる。ワクリエ新居浜の売上のみならず、入居企業の売上やビジネスマッチングの実績もあり、行政直営では生まれにくい企画力、営業力等の民間活力を活かす取組が続けられている。

財源内訳

事業費（歳出）		財源構成（歳入）	
・総事業費	524,784 千円	・地方創生拠点整備交付金	244,867 千円
		・地方創生推進交付金	5,529 千円
		・一般財源	274,388 千円

〔取組〕

当該施設は、歴史、学び、産業、イベント、グルメ、音楽、木育をコンセプトとして多様なニーズを満たすだけでなく、数々の実証実験の場となっている（ドローン映像の高速データ通信、8K 画質 VR カメラ、E スポーツ、施設の脱炭素化、避難

所のレジリエンス強化の取組、IT 企業誘致・移住促進事業等)。まさに幅広い多目的複合施設である。さらに企業版ふるさと納税の活用など民間企業との連携によりレンタルオフィス、コワーキングスペース、木育施設の整備などさらなる施設の充実へとつなげている。

当該施設の強みとしては、地域、学校、大学、企業、移住希望者、国際交流者と、利用者の多層化から、多様な来館への動機付けに成功しているばかりでなく、頻繁にイベントも開催することにより、全体的な利用者数、収益ともに安定して上昇傾向が続いているとの説明があった。

施設別利用者数

(単位 人)

施設	R3 (6/1オープン)	R4	R5	R6
地域交流スタジオ	579	17,468	3,928	2,056
キッズスタジオ	1,261	4,351	5,742	2,745
木育ひろば 木音	5,238	5,708	7,567	8,903
リカレントルーム	1,795	4,091	5,370	5,966
コワーキングルーム	1,745	2,100	2,947	2,523
スタジオON AIR(シェアオフィス)	0	0	0	138
クラフトルーム	1,206	2,009	2,898	5,305
コミュニティサロン	9,129	16,203	18,816	18,634
レンタルオフィス	42	0	0	0
小会議室	43	0	11	181
スタジオ 奏	469	986	1,418	1,685
キッチンスタジオ	349	886	1,170	2,259
地域活動支援室	127	559	8,891	5,351
多目的室	3,908	7,032	10,742	12,126
わくわく広場	558	941	1,139	12,115
若宮食堂	16,658	19,703	18,711	16,555
運動場	4,177	7,112	9,007	29,804
体育館	8,095	13,167	15,417	27,256
その他(視察)	0	0	0	49
合計	55,379	102,316	113,774	153,651

〔事業評価と課題対応〕

指定管理者は評価基準について利用者数、収益、K P I 指標による成果報告として年度報告し、運営成果の可視化と改善につなげている。また、常設アンケートにより利用者の声のモニタリングを行う。これらの取組を続けた結果、令和6年度のアンケート結果では総合満足度、職員応対共に高評価であり、再利用意向や実際のリピーターも多く継続利用が定着していることが確認できた。

一方で運用を進める中で見えてきた課題についても率直に情報共有いただいた。例えば、旧校舎特有の段差、大規模イベント時の駐車場不足、グラウンドの水はけ等の施設特有の課題についても随時丁寧に対応されている印象を受けた。

〔所感〕

本施設は、廃校となった学校建物を「負の遺産」ではなく地域の重要な資産と捉え直し、そこに新たな機能と付加価値を加えることで、多世代が日常的に集い、学び、働き、交流できる多機能拠点へと再生されていることが確認できた。教室や廊下など学校特有の空間・設備を可能な限り残すことで、卒業生を含む多くの住民にとって引き続き親しみと誇りを感じられる場となっており、地域の記憶を継承するアイデンティティの核として位置づけられている。

また、指定管理者制度のもと、KPIに基づく運営評価を行うことで中長期の目標と成果が見える化し、市民にもわかりやすい形で検証していく取組や、自治会・学校・企業・大学等との協働により、「公共性の高い活動」と「民間活力を活かした活動」の両立が図られている点が特徴である。さらに実践の中で工夫と改善を重ね、次々に新しい実証実験の拠点として機能している点は非常に参考になった。本市においても、今後の複合施設整備や公共施設マネジメントを検討する上で多くの示唆を得ることができた。



ワクリエ新居浜 視察風景

報告者 総務建設委員会委員長 中井 政友